

# 岡山県奈義町 視察研修報告 その2

## 「奈義町研修」を活かすには？ 「人口減少」は町の死活問題

### 「子育てを町民みんなで支えてもらっている」

岡山県奈義町は2002年の住民投票で合併せず単独のまちを選択。覚悟を決めた施策の展開で、2019年には出生率2.95を記録しました。支援策を受けた町民のアンケートでは90%が「みんなに支えてもらっている実感」と語っています。

#### 高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」

- ◆住むところがあって安心  
若者向け住宅の建設（平成23年～27年：合計81戸）
- ◆働くことができ安心  
町有地を企業に区画分譲→売却だが、思うようには売却できず（担当者）
- ◆子育ての負担が軽くなって安心  
結婚、妊娠、出産、子育てにかかる費用をトータルに支援
- ◆子育ての悩みや喜びが共有できて安心  
チャイルドホームで交流
- ◆町みんなが子育てを応援してくれて安心

甲良民報890号の続

#### きとことん 子どもファースト

#### 子育て支援策優先

奈義町のホームページを閲覧すると、町の施策、施設、それらをつなぐ人々、そして町長さんの言葉、どれもが一本の哲学にコーディネートされているように感じる。アピールが上手なのかも知れないが、歴史があり、現在の町民のくらしと課題がつながり、研修内容と合わせて納得できました。

#### 乳幼児も高齢者も安心「家族医」制度

行政事務は千差万別、あれこれとある中、子育て支援の直接的施策と共に、その施策を支えるトータル的な取り組み、中心命題を薄めたり外すことなく実行しているなあと感じる。たとえば公設病院が町内には無いことから、いち早く「家族

医」を導入し地域全体で見守る仕組みを構築」されたことについては、罹病率の高い乳幼児と高齢者が安心して医療が受けられる環境は不可欠で、隙間を埋める工夫が見られるのではないかと思います。

#### 特筆すべき

#### 職員のがんばり

そして、決定的に重要なのは、町政の中心課題・政策を推進し実務を担う庁舎の機構・職員配置だと思った。奈義町のホームページで機構を確認すると視察研修の担当をしていただいたのは「子ども・長寿課」でした。シンプルかつ合理的に中心課題推進を担う組織体制が組み立てられていると感じた。

#### 長期の取り組み、覚悟が必要

奈義町と我が甲良町とどこが違うのだろうか？近い将来に消滅自治

体」と世に衝撃を与えた社人研の発表から久しい。我が町でも「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をつくりすすめてきた。しかし、人口は減少するばかり。奈義町のように科学的な分析で、今後6～7年が最後のチャンス」2030年代に入ると出産期の女性が減ってしまう。まさに「時間との闘い」という緊迫した認識を共有しなければならぬのでは。せっかくの奈義町視察研修を活かしていききたいと思えます。

#### 本来は国の責任で

より根本的には、この2月、奈義町を視察した岸田総理が「軍拡熱中」から目覚め、名実ともに「異次元の子育て支援」の予算を確保すること、が最も重要ではないでしょうか。



#### 甲良町では実施していない 支援制度の一例

- \*町独自の奨学育英金  
卒業後に町への定住で全額返済免除
- \*高校生への就学支援金  
(年額24万円)  
奈義町には高校がなく、周辺高校に通学する交通費月2万円として支援

### 甲良民報

2023年8月6日 891号  
発行責任：日本共産党甲良町議員  
連絡：甲良町在士373（西澤）  
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949

◎日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】